

### 第3章『廃業or M&A－それぞれの社長が見た工場の風景－』

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター  
統括責任者 兼田 亜貴



夕暮れの工場地帯。去っていくトラックが消えるまで、いつまでも見守る老夫婦がいました。そこは昨日まで稼働していた工場ですが、いよいよご廃業の日を迎えました。別れを余儀なくされた「相棒」と社長が呼んでいた旋盤機械は、処分されるというのに、前の晩から奥様と時間をかけてピカピカに磨かれたそうです。「今までありがとうございます。ご苦労様。」という気持ちを込めて。

汗だくで今まで一緒に頑張ってきた工場や機械たちと離れる日は、寂しさで一杯になると聞きます。ご廃業の話をしきといつも冒頭のエピソードを思い出します。

一方、当センターのお客様の中で、廃業からM&Aへ方向転換された会社がありました。運よく、良い相手と巡り合い、会社の存続に成功。お祝いも兼ねてM&A後、工場に伺いました時に、引退直前の社長が、2階から手すりに体を預け、工場内をぐるりと見まわし、そして、安どに満ちた柔らかい笑顔をされていたのが印象的でした。

当センターの相談企業様では、廃業より、誰かに引き継いでもらいたい、とM&Aを決意される方が増えていきます。お金の面に関してもM&Aをした方が、お手取りが多くなると一般的に言われています。というのも、廃業のために清算される場合は、一般的に①在庫や機械装置は処分価格となる ②割増退職金の発生 ③株主への清算配当金について高い税率で課税される可能性等があるからです。

これに対してM&Aで譲渡した場合は、対価として、時価の純資産価格に「のれん（営業権）」がプラスされることがほとんどであり、株式譲渡所得に対する税率は約20%ですみます。

最近、当センターにおいて、会社を自分の代で清算してしまうか、引き継いで存続の道を探るか、悩んでいる方のご相談が増えていきます。いろんな道と一緒に検討しましょう。

